

C-5 力学的にみた衣服の安定性 (第2報)

織物の力学的な異方性と衣服の安定性との関係

信州大学 呉 祐吉・篠原 昭○松橋房江

織物は経糸と緯糸とから構成されており、最も簡単な組織である平織でも、各方向の用糸番手、糸密度したがって cover factor が異っておるのが普通である。そのため織物の力学的な性質特に引張強伸度、曲げ剛さ、防皺性等はその方向依存性が大きく、一種の直交異方性類似の挙動をするとみなされている。

われわれは先に織物の曲げ剛さと防皺性の異方性について研究した。婦人衣服の中この点が特に問題になるスカート類について、その性質との関係を考察してみた。スカート類の安定性で特に重要なものはドレープであり就中不均齊な draping でスカートの後部が前部より長く垂下する点とクリノリンスカートのようなふくらみの安定性の問題である。第2は防皺性の問題である。ある種の布は 45° bias 方向で皺がよりにくいことがわかっているが、このことからスカート類の裁断方法を工夫すれば、比較的皺のよりにくいものを作ることができる。

以上の諸項につき主として理論的な考察結果を報告する。